

たい 支援をまごま

「いま必要なもの」現地へ 瀬戸北RC、七尾市に物資送る



被災地に送る支援物資を確認する瀬戸北ロータリークラブの会員たち＝瀬戸市本郷町で

能登半島地震から2週間となった15日朝、瀬戸市の瀬戸北ロータリークラブは友好クラブの七尾みなとロータリークラブの依頼を受け、石川県七尾市に支援物

資を送った。瀬戸北の伊藤京子会長(73)は「被災者のために役立ててほしい」と力を込めた。

両クラブは10年ほど前から交流を続けている。地震

発生の翌日、「何かできることはないか」と問い合わせたところ、7日になって必要な物資のリストが送られてきた。

10トトラック1台に積み込まれた物資は給水用品や防寒・衣料品、食品のほか、寝る時のマットに枕、リップクリーム、生理用品、ペットの餌なども。要望がなければ思い浮かばない物も少なくなかったという。

伊藤会長によると、七尾みなとの会員の自宅や会社も断水したり、物が散乱したりと被害が大きい。物資は現地に到着後、市役所と相談しながら必要な場所に分配するという。伊藤会長は「人と人の縁が繋がって支援の輪が広がれば」と話していた。

(宮川まどか)